題字　浜名一雄

第18号　昭和54年7月10日
発行者　群馬県山岳連盟
〒371 群馬県前橋市大手町1－1－1
TEL (0272)23―1111 内線519・520
群馬県観光課内
編集者　群馬岳連編集委員会
責任者　悴田正也
印刷所　㈲高橋印刷
定価　1部50円

楽しい登山のために

遭難救助隊長　西山年秋

楽しい夏山シーズンがやってきました。冬の静寂から混雑する山へと移り変るのです。登山は一つの目標のもとに、その目標達成に向い、用意周到な準備とトレーニングを積むことによって初めて達成されるべきであると考えます。

特に登山における安全性は、山に危険があるのではなく、登る人の側にあることを銘記すべきです。本県岳連に救助隊が結成されてから十年が経過しました。ここで遭難対策について、もう一度原点にかえり皆さんと考えてみたいと思います。

先ず第一は、自分の所属する山岳会の会員を指導教育できる人材の育成をはかることです。

遭難対策の本来あるべき姿は、いうまでもなく事故を未然に防止すること、つまり予防対策にあると思います。そのために、各山岳会とも会員を指導教育できる人を多く育成することが必要であります。指導教育する上で重要なことは、会の目標なり性格に合ったカリキュラムを組むことですが、同時に会員の技術の進歩の度合いによって、その計画を修正していけば更に良い結果が得られることでしよう。要は知識技能ともにバランスのとれた会員を育成することです。それらの人材育成にあたって、現在実践されていることですが、指導員会は、無雪期の岩場、積雪期の氷雪壁登攀など技術向上のための講習会を。また、踏査登山や机上における読図及び気象等の講習会を積極的に行い。救助隊では、山岳連盟の救助隊員以外の一般団体を対象とした岩壁及び雪上の救助訓練と、知識や救助方法等で机上で出来る研修会を行い。救助隊員はこれとは別に、岩場におけるウインチ操作の技術や雪崩の際の捜索等、より高度な救助技術の習得に努め、これを今後とも続けて行うことが望ましいのです。

その第二は、会員各自が平素から自己管理をはかることであります。遭難事故の陰に潜む間接的原因について考えてみますと、昔から十人十色という言葉がありますが、各自の人生感や体力的なもの或いは、山登りに対する考え方などは必然的に差異がありますので時には各人の身体面や精神面について、会独自で個別に調査し、それによって指導教育することも大切かと思います。登山を職業としない私達には、日常の基礎訓練は特に必要でありますが、その中、健康管理については最も重要とされており、自己の体力、普段の生活態度、持病の有無、トレーニングの仕方など、それぞれに管理工夫していきたいものです。

第三は、山行管理の徹底をはかることです。管理社会にあっての「計画に始って報告に終る」パターンは、登山でも通用することでして山行を積み重ねていく上で非常に大切です。各山岳会ともに、会員の登山計画に対する許可はリーダー或いはリーダー会で承認し、実行されていると思います。計画が不備であれば修正されるでしょうし、各人の技術と目的とする山域のグレードとに差異があれば当然に不許可としていると思います。特に合宿などは詳細な計画を立て更に検討に検討を重ねて実行されねばならないのです。救助隊では従来から各山岳会の春山及び夏山合宿について、あらかじめ登山計画書を救助隊長に送付しておくこととし、冬山については、冬山合宿検討会とその報告会を実施してきました。これは今後とも励行していってもらいたいと思っています。

以上雑感を述べましたが、人間本来の冒険心までをも否定するつもりはないのです。山は楽しく登るべきもので、自己の能力に応じた山行を実施していれば遭難は激減していくことでしょう。入山する日だけが山登りではなく、登山が日ごろの基礎訓練と技術知識の蓄積であるという見識に立てば、これが安全登山につながることを原点にかえってお互いに考えようではありませんか。

日山協の 国体会場地視察報告

五月十日～十一日に㈳日本山岳協会国体委員長滝島清、同常任理事坂口三郎の両氏が、群馬国体会場地である片品村・川場村・水上町の幕営地を中心に視察しました。両氏の講評は、幕営施設関係については、旭小屋幕営地について便所の増設と水の関係（上水道以外は保健所の検査が必要）の指摘があり、その他の施設については申し分ないとのことでした。今後競技全体としての計画（競技コース、輸送計画等）を、さらにつめていただきたい。コースは、一日6コースの縦走コース。踏査コース3コース。登はんコース1コース設定する必要があるが、設定に当り次の点を留意していただきたい。

一　車道を歩かせない。
二　コース設定を一日の行動時間を8時間前後とする。
三　コース及び施設整備について、関係機関との連絡を密にしてトラブルのないようにする。最近自然保護団体とのトラブルが多くなっている。
四　要員計画は、県、岳連、地元町村の協力により準備していただきたい。
五　登はん会場へのアプローチ・岩質・グレード等の調査により、競技が可能かを早急に決定していただきたい。
六　町村及び岳連との実行委員会を早い時期に組織していただきたい。又競技本部を決め国体本番中にも移動させないでいただきたい。
七　通信関係で、中継基地の設定も早く決め、幕営地も広く整っている中を、国体で使用する場所を決めていただきたい。
八　岩場については、良く審査ができる場所で、報道や一般視察員が立ち入れる場所を考慮していただきたい。

以上国体開催に当っての注意や要望がありました。今回の視察で開催町村、岳連、県との初会合もでき、視察員のアドバイスもあり群馬国体運営面での第一歩を踏み出せた様に思います。（文責女屋）

国体コース 調査概況

国体部会では、山岳競技が片品村、川場村、水上町の三町村で開かれることに決ったことから、これらの山域にまたがる尾瀬、上州武尊山を中心にコースの調査を行いました。今回の調査は

1鳩待―悪沢岳―笠ケ岳―咲倉沢出合
2武尊自然休養村キャンプ場―武尊田代―武尊山―青木沢
3右同武尊山―須原尾根上の原
4武尊牧場―家の串―前武尊―花咲
5花咲―前武尊―不動岩―川場駐車場
6赤倉山周辺（岩場調査）

を主に行いました。

縦走コースとしては、至仏山と上州武尊山のピークを踏み、幕営地は、湯の小屋、旭小屋、武尊牧場等の周辺を考えています。今後の調査で一日の行程をどれだけとするか、行動時間、距離等の点も考え検討していきたいと思っています。

登攀会場として赤倉山周辺を探しましたが良い候補地が見つかりませんでした。ところが、その後赤倉山の北方に地図の上では岩記号がありませんが、すばらしい岩壁があることが分り、地元で聞いたところ高岩と言っていました。岩質は、須田貝花崗岩と言うのだそうですが、地元でコメ岩と言っている非常にもろいおむすびがぼろぼろこぼれるようなねん着力のない岩と、かたい花崗岩の二通りの壁がみられます。

いくつかのルートは試登してみましたが競技となると何処の壁を選んでよいかちょっと考えさせられます。人工登攀の練習にはもってこいの壁もありますので是非皆さんも試登して下さい。カモシカの姿も見られました。

（P4概念図参照）

新たな発展を期して

五四年度岳連総会

六月二十四日午後、県民会館において、五十四年度岳連総会が開催された。当日の参加団体二十六参加者五十三名で、五十三年度の事業及び決算報告と、五十四年度の事業計画と予算案について審議された。

総会の始まる前に、七月一日の谷川岳山開き当日の安全登山と美化袋の配布について事務局より協力要請がなされた。

浜名会長が欠席されたので、中島副会長を議長に選出し、議案について審議が行なわれ、原案通り承認された。なお、総会後懇親会が催され、和気合々のうちに散会した。

五三年度事業報告

一、遭難防止救助訓練

遭難救助隊を中心とした救助訓練を行い、救助技術の向上・隊員間のチームワーク養成など効果がみられた。

一般対象　五・二八　裏妙義

隊員訓練　七・二及び九・三・一　ノ倉沢・五四・三・　一ノ倉

冬山合宿検討会十二・一　同報告会一・二二　他に谷川岳を中心として実際の遭難救助活動を行った。

二、遭難防止パトロールの実施

谷川岳を中心として、遭難防止の一環としてのパトロールを実施し、連休・山開きを中心としたパトロールを行った。

三、美化運動の実施

谷川岳六・一〇（環境週間）

〃　七・二（山開き）

尾瀬　七・二二～二三（尾瀬ゴミ持ち帰り運動）

四、岳連報（嶺呂）の発行

一四号から十七号まで、四回発行した。

五、国体・指導部の活動

。長野国体（十・十四～二〇）への参加及び予選会の実施

。第三八回国体現地調査一一・三

。国体準備のための組織強化

。各種研修及び講習会の実施

五・一九～二一高校総体（榛名）

六・一〇～一一国体審判員養成講習会（谷川岳）

六・四春山技術講習会（谷川岳）

七・九実践的救急法講習会（体協）

九・九～一〇国体地区別審判員研修会（日光）

一〇・二五・二六・二九読図講習会及び実習（体協会館・橋山）

一・二七～二八、二・二四～二

五、三・一〇～一一国体選手強化合宿一・二・三次（土合　藤原　榛名黒岩周辺）

四・二六～二九高体連リーダー講習会（尾瀬）

六、ヒマラヤ登山計画の実施

群馬県ヒマラヤ登山隊のダウラギリI峰の登頂。

七・二九出発。一一・二二帰国登頂第一次隊一〇・一九

第二次隊一〇・二二

合同慰霊祭一一・二六

七、全国山岳遭難対策協議会

七・一二～一三　高山市

八、その他

日山協・文部省主催の各種行事に参加、また関東地区岳連及び県岳連の主催する講習会・検定会等の実施を通じ、各会の親睦と技術の向上に努めた。

五四年度事業計画

一、遭難防止活動

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動及び救助隊の技術の向上のための訓練を行う。

二、国体等の参加及び第三八国体対策の強化

各種登山大会への参加、技術の向上及び他県との交流を深める。

第三八国体へ向けての組織の強化を図る。

三、日山協主催行事の参加と各会の交流

日山協の行事に参加し、同時に各会との交流を深め研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四、美化運動等市民運動への参加

美化運動等の推進に協力する。

五、岳連報の発行

会員の結びつきと啓蒙を図る。

六、各種研修会・講習会の開催

七、海外登山研究会の開催

ヒマラヤ登山隊報告書の作成

八、その他

昭和54年度行事予定表

	総会	遭対	指導員	海外	国体
4	◦理事会(11)	◦新隊員訓練(8) 榛名			◦県予選会(14—15)榛名 ◦日山協臨時委員会総会
5	◦常任理事会(9) ◦谷川岳パトロール	◦一般対象救助講習会(27) 谷川岳	◦雪上技術講習会(20) 谷川岳　検定会	◦ヒマラヤ登山隊報告会(16) 県民会館 ◦研究会総会(13)	◦中央団体視察(11—12) 武尊山
6	◦常任理事会(13) ◦理事会・総会(24)		・指導員検定会(3)	◦第四回海外登山研究会 (16—17)上毛会館	
7	◦谷川岳安全登山の日(1) ◦常任理事会(11) ◦尾瀬ゴミ持ち帰り	◦救助訓練(1) 谷川岳 ◦全国遭対協(12～13)大山		↑ ヒマヤラ登山隊報告書作成	◦ブロック予選(14—15) 丹沢
8					◦関東地区審判員研修会
9	◦常任理事会(12)	◦救助訓練(2)			◦競技運営技術研修会 (14—16)武尊山
10	◦理事会(17) ◦谷川岳清掃登山		◦人工岩登講習会		◦宮崎国体(14—19) ◦選手指導養成所(27—28
11	◦常任理事会(14)		◦実技講習会(17—18) 鳴神山 ◦高層天気図		
12	◦常任理事会(12)	◦冬山合宿検討会(10)		↓	
1	◦理事会(9)	◦冬山合宿報告会		◦日山協海外登山技術研究会	◦二次強化合宿
2	◦常任理事会(14)		◦氷雪壁講習会 松木沢		◦二次強化合宿
3	◦常任理事会(12)	◦救助訓練	◦リーダー養成講習会 (26—29)尾瀬		◦二次強化合宿

――かくされた山⑪

平ケ岳

前橋山岳会

幕営地から見た外田代

此の山は、利根・只見両源流部に位置し、又県境山岳の盟主である。豪雪地帯のため、残雪は六、七月頃まで残る。

白沢山、平が岳周辺では池塘を見る事が出来る。登路は、尾瀬から行くのと利根支流、水長沢を登るコース、四二、三年頃銀山側に開かれた登山道と、三コースある。

五一年二月、この年は二月に好天が続き雪もしまり比較的楽に入山する事が出来た。早朝の尾瀬戸倉ゲレンデには人影も見られない。スキーをザックに取付け出発、笠科川の橋を渡り夏道にそって進む。カラ松林を過ぎるとまもなく、大きなデブリが道路を塞いでいるので通過には細心の注意を払う。津奈木沢出合で道路と別れ、沢に沿って登る。まもなく鳩待峠に着く。小屋は半分くらい雪に埋れている。冬山には珍らしく良い天気に恵まれて、笠が岳至仏、遙か北の方向に白沢山が木の間隠れに望まれる。峠から山の鼻小屋への下りは、右岸の樹林帯を斜滑降で滑る方が楽しい。川上川の流れも雪に埋れて蛇行しながら原に向っている。流れが右に大きく変る所に橋がある。橋を渡ればブナや米ツガに囲まれた山の鼻小屋が見える。原は一面の銀世界で流れに沿って並ぶ木立の姿が実に美しい。

訪れる人達を楽しませてくれた尾瀬も今は永い冬の眠りについている。猫又川も簡単に渡る事が出来た。

原を横断し、背中アブリの尾根に取付く。

ブナの樹林をぬけると急斜面の雪田となる。雪崩が出そうな所だ。一七三八mのピークから広い尾根を少し下り樹林帯に入る。此の樹林をぬけると、雪原になる。外田代は幅広い二本の長い帯を並べた様な感じだ。

カッパ山と大白沢山の鞍部に出て幕営する。展望もすばらしく大シラビソに囲まれ快適な一夜を過ごす。二日目、薄暗い内にテントを出る。大白沢山、一九四二mは、頂上迄登らず右側を斜滑降で目崎山、ススガ峰方面分岐点の小ピークに滑べる。この附近は、広い樹林帯なので赤布を付けながら行く。白沢山手前の鞍部まで尾根は余り広くなく、白沢側に所々雪ビが張り出している。白沢山、一九五三mから眺める平が岳は、大きなスリバチをふせたようだ。白沢山からは広い尾根となりアイスバーンの斜面が頂上まで続く。傾斜が落ちてくれば頂上も近い。広大な雪原の一角に白ビソが頭を出している。その中に平ガ岳、二一四〇mの指導標がある。展望もまた、すばらしい。利根源流の山々、魚沼三山・兎岳・荒沢岳、遙か北方に末丈岳・浅草岳・東方に只見川をはさんで会津駒ガ岳・三ツ岩岳から稜線が会津朝日岳へと続く。

帰路は、白沢山と分岐点の鞍部までは、一気に滑べれる。大斜面を各自、思い思いに楽しみながら滑べる。アイスバーンの急斜面、スキーは思うにまかせず苦労する。鞍部から分岐点までは樹林に沿って登る。

一七三八mのピークからは、右斜面上部よりの雪崩に気を配りながら一人ずつ間隔をあけ原に下り、原に出て山の鼻小屋めざし雪原を横切る。此の辺で雪が降り出す。小屋の近くに幕営。

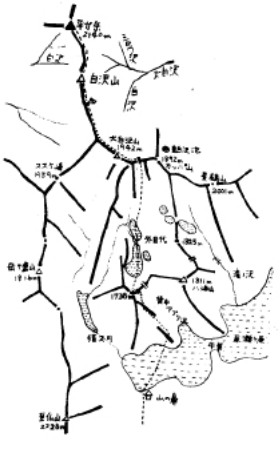
夜半から吹雪となる。天幕を打つ風の音を子守唄に山の鼻の一夜を過ごす。三日目、新雪二〇cm、吹雪の中を鳩待峠に向う。峠は風の通路になり視界ゼロ、のんびり休憩も出来ず、早々に戸倉に下る。

今回の山行を振り返って見れば中旬に好天気が続き雪がしまっていたので二泊三日で平が岳に登る事が出来たが、ラッセルでもするようならば、三日間では無理であろう。

記録 五一年二月二一日快晴・鳩待口六時発。山ノ鼻をへて一七三八mのピーク一三時発。カッパ山大白沢の鞍部一五時二〇幕営。

二二日曇のち時々雪。六時発。白沢山七時五〇・平ケ岳八時四五着・九時二〇発。幕営地へ戻り、テント撤収一二時発・山ノ鼻一四時着・幕営。

二三日ゆき・山ノ鼻八時・鳩待峠九時三〇発・鳩待口十時五〇。



前橋山岳会の紹介

創立は、昭和十四年十二月一日当時は会員夫々、比較的自由な行動で楽しむと云う在り方であった。昭和二十年代後半頃から、組織的な形態で、山に入るようになった。

当時は主として、上越の山々が対象であった。会の考え方は、四季を通じて、片寄らない山を目指してゆく、と云う事である。

又昭和二十五年頃から、一般市民を対象とした登山の会を発足させた。現在も続いて居り、春秋の二回実施し、県内外に広く足跡を残している。

会員数　三十五名

事務所　前橋市大手町二―七―十一　大井　清宅

会長　福島　孝

昭和53年度収支決算書

（収入の部）　（単位円）

科目	予算額	補正	収入済額
繰越金	188,208	0	188,208
会費	444,000	△ 68,800	375,200
未収金	85,000	△ 61,000	24,000
交付金・補助金	1,007,000	422,800	1,429,800
寄付金	5,000	△ 5,000	0.
雑収入	20,792	△ 18,281	2,511
計	1,750,000	269,719	2,019,719

（支出の部）　（単位円）

科目	予算額	補正	支出済額
事業費	1,435,000	386,570	1,821,570
会議費	50,000	△ 19,000	31,000
事務費	35,000	△ 33,450	1,550
旅費	40,000	△ 9,220	30,780
負担金	118,000	△ 69,610	48,390
予備費	72,000	△ 72,000	0
計	1,750,000	183,290	1,933,290

昭和54年度予算

（収入の部）　（単位円）

科目	予算額	前年度予算額	比較増減
繰越金	86,429	188,208	△ 101,779
会費	436,000	444,000	△ 8,000
未収金	125,000	85,000	40,000
交付金・補助金	1,827,800	1,007,000	820,800
寄付金	5,000	5,000	0
雑収入	119,771	20,792	98,979
計	2,600,000	1,750,000	850,000

（支出の部）　（単位円）

科目	予算額	前年度予算額	比較増減
事業費	2,335,000	1,435,000	900,000
会議費	50,000	50,000	0
事務費	35,000	35,000	0
旅費	40,000	40,000	0
負担金	116,500	118,000	△ 1,500
予備費	23,500	72,000	△ 48,500
計	2,600,000	1,750,000	850,000

国体選手第一次強化報告

岳連加盟団体及び高体連登山部から、候補選手の推せんをいただき、三回の強化合宿を実施しました。第一回は、一月二十七日～二十八日に、土合山の家で「国体山岳競技について」、「国体山岳競技の服装・装備について」、「観天望気」についての講習と、白毛門山への登山を実施しました。第二回は、二月二十四日～二十五日に藤原洞元荘で、「登山計画書の作成」、「読図」、「歩行技術と体力調整」の講習と上ノ原高原で実践的読図歩行を実施しました。第三回は、三月十日～十一日に榛名山黒岩周辺で、「天幕の張り方」の講習と、成年男女子は登はん。少年男女子は踏査の実践的研究を実施しました。

回を重ねるごとに参加者も増え内容も登山の基礎を中心としたものとしたことから有意義な強化合宿であったと思います。

岳界通信

国体選手予選会（県民大会第二部山岳競技）

昭和五十四年度の第三十四回国民体育大会は、十月十四日から十九日までの間、宮崎県奥日向山系で行われますが、県予選会を四月十四日十五日の二日間にわたり榛名山で行いました。これは毎年六月に行っていたものですが、本年は得点種目への移行に備え、より一層の強化をはかるため早めたもので成年男女合せて三十四人が参加しました。

縦走競技は掃部が岳、天目山、相馬山を、踏査では二ツ岳周辺、岩登りは黒岩でそれぞれ行いました。なお今回は群馬国体を控え救護体制の訓練も行い、岳連救助隊員を中心に救助や通信連絡等に非常な成果を得ました。選衡結果は次のとおり、

成年男子（監督・女屋等志(31)）
松島宗一 (25) 前橋山岳会
平形真二 (24) 中之条山の会
野口浩康 (22) 倉渕山岳会
成年女子（監督・水野金太郎(37)）
大坪時恵 (29) 沼田山岳会
茂木弘子 (27) 〃
竹野君代 (25) 〃
少年男子（監督・大谷　清(42)）
畠山貴嗣 (17) 高崎工
広田　稔 (17) 沼田高
高原順一 (17) 伊勢崎工
少年女子（監督・登坂　厳(42)）
上野久枝 (17) 高崎市女
有坂明美 (18) 高崎市女
山口浩美 (18) 富岡東

樋口宗平氏 一種指導員に合格

樋口宗平氏（桐生山岳会）は、先に提出しておりました一種指導員の検定論文に見事合格しました。今回の応試者は合計二十七名でしたがその中十二名が合格したもので非常に厳しい検定です。この難関を突破した樋口氏に惜しみない拍手を送るとともに今後ますますご活躍されることを期待しております。

八木原圀明氏 日山協 海外登山関東地区委員長に

日山協海外登山委員会では、今年から全国十ブロックに分けてそれぞれ委員会を設けましたが、本県からは八木原圀明氏が関東地区委員長に推せんされました。今後の活躍が楽しみです。

指導員検定会

指導員会では日山協から委嘱を受け、五月二十日谷川岳マチガ沢において雪上技術の検定を行い、次いで六月三日榛名山黒岩において岩登り技術の検定を行った。応試者は六十九名に及び熱気に充ちた検定会であった。検定結果については現在集計中である。

国体関東地区ブロック予選会

宮崎県で行われる今年の国体は同県知事の逮捕というハプニングもありましたが、なんとか開催されるとのことです。関東地区岳連では成年女子、少年男女について七月十四日十五日の二日間にわたり神奈川県丹沢山塊の東丹沢でブロック予選を行うことになりました。

岳連では右の三種別とも予選突破を目指し目下選手強化中です。

なお、右子選会に本県からは赤石副会長と高橋（啓）指導員が審判員として参加いたします。

昭和54年度 救助隊結団式

三月二十七日、群馬体協会館で昭和五十四年度救助隊結団式が催されました。

救助隊員紹介

隊長西山年秋（沼田）副隊長中原正喜（ミヤマ）塩野　隆（沼田）松永幸雄（〃）藤塚　満（〃）山田　昇（〃）小泉俊夫（前橋）都丸和芳（〃）湯沢好夫（〃）谷弘行（ミヤマ）森田春樹（〃）阿久沢芳夫（〃）阿久沢清人（〃）小林　茂（〃）和田伸雄（むすび）藤井正之（〃）茂木　稔（独峰）石原重喜（〃）新井邦光（高崎）丸山正捷（登高会）増子　稔（沖電気）能美沢栄三（伊勢崎）仁科雅司（〃）角田憲司（星稜）青木博純（境）鈴木　茂（太田）西原一美（富士重工）須田久男（桐生）阿部　源（大間々）福田純一（〃）

以上三十人のほか、岳連遭対部加藤藤夫（富士重工）長谷川　勇（中之条）相談役川辺柳一（境）田中成幸（登高会）桜井　進（太田）女屋等志（ミヤマ）で組織されました。

また、救助隊員として五年間活躍された四人の方々に、群馬県知事及び岳連会長から感謝状が贈呈されました。

丸山正捷（登高会）谷　弘行（ミヤマ）千木良一郎（〃）須田久雄（桐生）

救助隊出動報告

本格的登山シーズンを迎え、本県では谷川岳を中心に遭難事故が続発しております。登山計画、自己の体力調整等十分に行い、遭難を起こさない心構えを持って楽しい登山を実行してください。

五月十三日、神奈川県海老名市の石川三郎さんが、谷川岳一の倉沢衝立岩雲稜第二ルートを登はん中、ハーケンが抜けて転落し負傷した。この事故現場に居合わせた隊員五人が救助に当った。

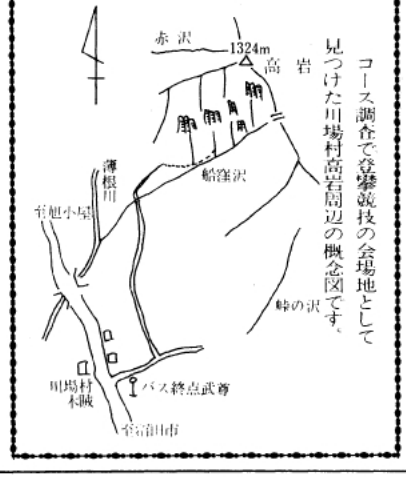
東京都練馬区、中村敏弥さんは谷川連峰エビス大黒山付近を縦走中、エビス大黒沢へ滑落した。通りかかった登山者が中村さんの遺体を発見、沼田警察署へ連絡し救助隊出動要請があった。五月十六日から二十七日にわたり、みぞれ混りの雨の中を稜線直下七百メートル下から稜線まで引上げた。

五月二十七日午前九時三十分ごろ、神奈川県横浜市の市川賢治さんが、谷川岳マチガ沢シンセン沢で登山訓練中滑落し、全身打撲で死亡した。当日、付近で救助技術講習会に参加していた隊員五人が遺体収容に出動した。

（文責　中原正喜）

高岩周辺概念図

コース調査で登攀競技の会場地として見つけた川場村高岩周辺の概念図です。



忘れ物

。クライミングコート

四月十五日榛名山で行った国体予選会でクライミングコートを忘れていった方は申出下さい。

。ザイル

六月十日榛名山黒岩でザイル一本を忘れていった方申出下さい。

編集部で保管